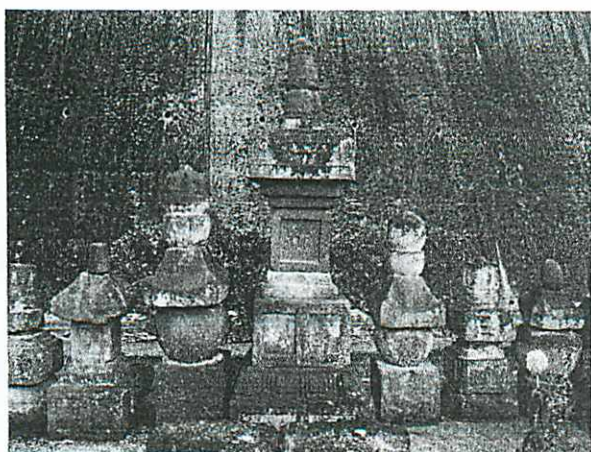




十軒村の中世石造物



聖眼寺の中世石造物

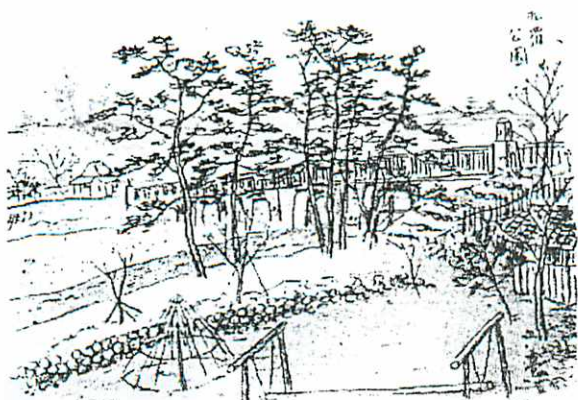


厚木市民文化祭 県央史談会史跡めぐり

—三田の中世石造物と松羅公園を訪ねて—

三田十軒村の中世石造物～聖眼寺の中世石造物～松羅公園～あつぎ郷土博物館

令和4年11月3日（木・祝）



松羅公園



松菊庵

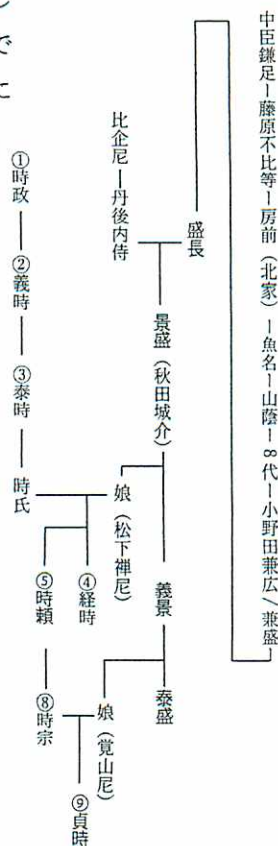
安達氏

九郎盛長第蹟　甘繩にあり、今隴畝たり盛長は中納言藤原山蔭が後裔備前守相繼の曾孫小野田三郎兼廣が子なり、頼朝蛭島に在て竊に兵を學んと欲せし時盛長力を戮せて其謀を資く、頼朝鎌倉に遷の後盛長舊臣たるを以て親任せらる、當所其時よりの宅地たり、治承四年十二月、頼朝始めて此第に來臨す、時に馬一疋を獻す

新編相模国風土記稿 長谷村の項

安達氏は、藤九郎盛長を祖とする鎌倉御家人の家である。盛長の前半生は判然とせず、頼朝に仕えたきっかけや時期もはっきりしていないが、頼朝の乳母・比企尼の長女である丹後内侍を妻とし、これをきっかけに頼朝に随い、御家人に列したといわれる。

第蹟 屋敷の址
隴畝 ろうほ うねとあぜ。田畑
竊に ひそかに
戮 あわせる
謀 はかりごと
資 たすける
治承4年 1180年



『尊卑分脈』『新編姓氏家系辞書』他
より作成

宝治合戦（三浦氏の乱） 宝治元年（1247）三浦泰村の一族が執権北条時頼とその外戚安達氏とにより滅ぼされた動乱。前將軍頼經の復位を画策する三浦泰村と弟光村に対し、安達景盛は義景・泰盛に北条得宗家の危機は安達家の危機であることを説き攻撃を命じた。泰村の妹婿、西阿（毛利季光）も急遽三浦方に加わり全滅してしまう。將軍家・反北条庶流・三浦氏に勝利した北条得宗家は安定した政権を手に入れることとなった。

大江広元・季光親子の毛利荘領有は終わりをつげた。その後誰に毛利荘が与えられたかを示す資料はないが、宝治合戦の功績や北条得宗家との姻戚関係から安達氏が領有した可能性が高いとされる。季光の三男経光は参戦せず安芸吉田荘を安堵され、戦国大名毛利氏の基礎を築いた。(『国史大辞典』)

霜月騒動 弘安 8 年(1285) 11 月、安達泰盛一族らが執権北条貞時により滅ぼされた事件。11 月に起こったことから霜月騒動と呼ばれる。安達氏などの御家人勢力と、得宗によって政権を獲得しようとする平頼綱などの御内人(みうちびと、得宗被官)との衝突であり、泰盛側の大半が滅びた。(『国史大辞典』)

吾妻鏡にみる安達藤九郎盛長の記述

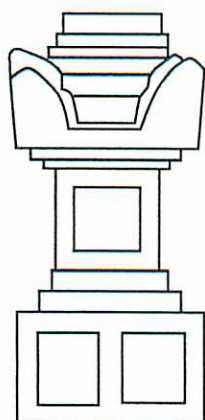
(出典 永原慶二監修 貴志正造訳注 『全譯 吾妻鏡』 自 卷第一 至卷第七 新人物往来社 1976)

西暦	和暦	月日	出来事
1180	治承4年	6月24日	頼朝安達盛長を派遣し、累代の御家人を召集す
		7月10日	盛長申す、波多野義常・山内首藤経俊召しに応ぜず
		8月17日	盛長、三島社へ奉幣の使いとして社参
		8月20日	頼朝、伊豆を出て相模国土肥に入る、盛長従う
		8月23日	石橋山合戦
		10月23日	頼朝、盛長らに相模国府において勲功の賞を行う。本領安堵
		12月12日	頼朝、新造の大倉亭に移徙の儀を行い盛長参列す
		12月20日	三浦義澄、頼朝新亭にて初垵飯、弓始の儀一番射手愛甲三郎季隆 頼朝御行始、甘縄の盛長の家に入る、盛長、馬一匹献ず
1182	養和2年	1月3日	頼朝、御行始に安達盛長邸を訪う
1184	寿永3年	4月1日	頼朝、北条より鎌倉に帰着。藤九郎盛長盃酒を献ず
1185	文治元年	10月24日	頼朝、勝長寿院落慶供養に臨む。藤九郎盛長随う、愛甲三郎季隆調度を懸く
1186	文治2年	1月2日	頼朝・政子、甘縄神明宮に御参。帰路、藤九郎盛長邸に入る
		6月10日	頼朝、甘縄の家に丹後内侍の病を見舞う
		10月24日	甘縄神明宝殿を修理、藤九郎盛長が行い、頼朝立ち会う
1189	文治5年	7月19日	頼朝、泰衡征伐のため奥州に進発、藤九郎盛長お供
1190	建久元年	11月7日	頼朝、入洛す。藤九郎盛長随兵
1191	建久2年	3月4日	鎌倉大火、幕府・鶴岡焼亡。頼朝、藤九郎盛長の甘縄の宅に入る
		7月28日	頼朝、藤九郎盛長が甘縄の家より新亭に入る
1192	建久3年	8月9日	実朝誕生す。藤九郎盛長等6人護り刀を献ず
		11月5日	若公御行始。甘縄の藤九郎盛長の家に入る
1194	建久5年	1月8日	頼朝、盛長宅に入る
		6月26日	頼朝、甘縄宮に参る。伊勢の別宮なり
		閏8月22日	頼朝、甘縄宮（伊勢の別宮）に参る。帰りに盛長宅に入る
		12月1日	頼朝、上野全寺社の管領を盛長に命ず
1195	建久6年	1月4日	頼朝、盛長宅に入る
		3月10日	頼朝、東大寺供養のため南都東南院に入る。盛長供奉す
		12月22日	頼朝、盛長の家に止宿す
1199	建久10年	1月13日	頼朝没す
		2月6日	頼家、左中將に転じ頼朝の遺跡を継ぐ
		4月12日	諸訴論、頼家の直断を止め、諸重臣の合議採決とす。藤九郎入道蓮西入る
	正治元年 (4/27改元)	8月19日	頼家、景盛を誅せんとす。軍士、蓮西が甘縄の宅に赴くも政子諫止す
		10月24日	伊勢神宮、三河国神宮領奉行藤九郎入道蓮西の代官狼藉により訴え
		10月28日	景時弾劾の連署状に宿老66人が加判す。安達藤九郎盛長入道
1200	正治2年	4月26日	藤九郎盛長入道蓮西没す、66歳（『新編相模国風土記稿』）。吾妻鏡記載なし
1215	建保3年	4月2日	実朝甘縄・日吉両社に詣ず。帰路安達右衛門尉景盛が家に入る

三田十軒村の中世石造物

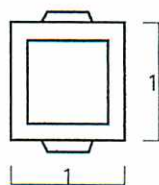


①

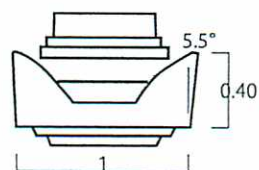


応永 25 年 (1418)

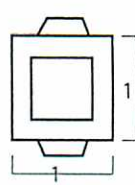
②



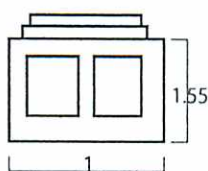
④



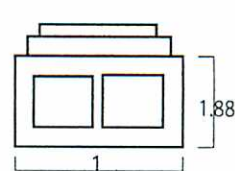
③



⑤

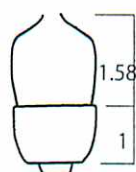


⑥

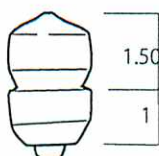


⑦

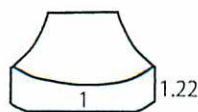
宝篋印塔 ※縮尺不統一



①



②



③



④



⑤



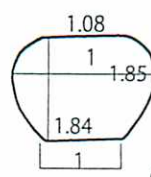
⑥



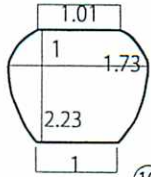
⑦



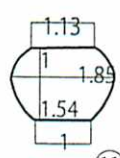
⑧



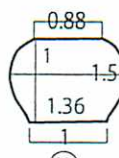
⑨



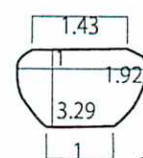
⑩



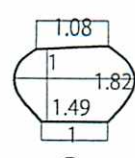
⑪



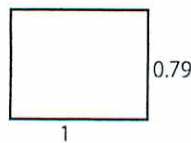
⑫



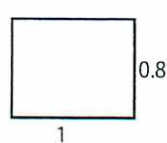
⑬



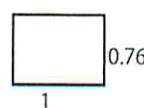
⑭



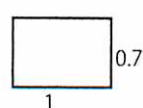
⑮



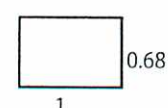
⑯



⑰



⑱

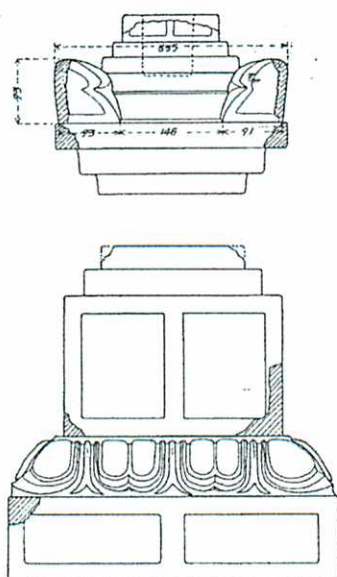


⑲

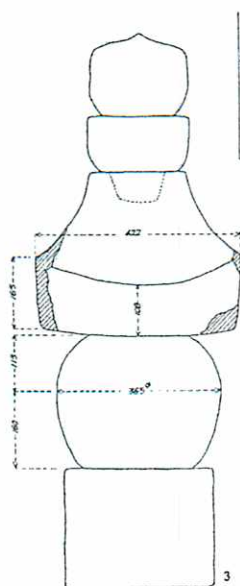
五輪塔

※『厚木市史』中世資料編より改変転載

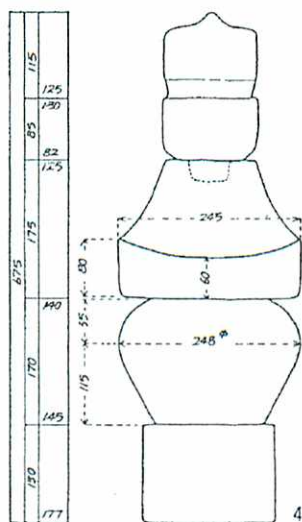
飯山金剛寺の中世石造物



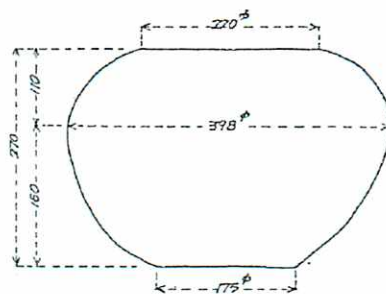
宝篋印塔
南北朝～室町時代 (14C 後葉～15 世紀前葉)



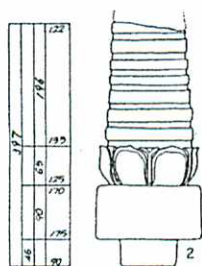
五輪塔
火輪・風輪・空輪 南北朝～室町時代 (14C 末～15C 前葉)
地輪・水輪 室町時代 (15C)



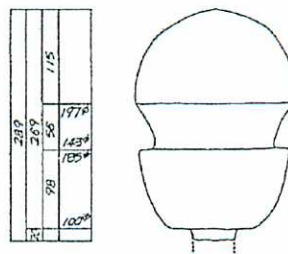
五輪塔
火輪・風輪・空輪 室町～戦国時代 (15C 後葉～16C 前葉)
水輪 室町時代 (15C)



五輪塔
水輪 室町時代 (15C)



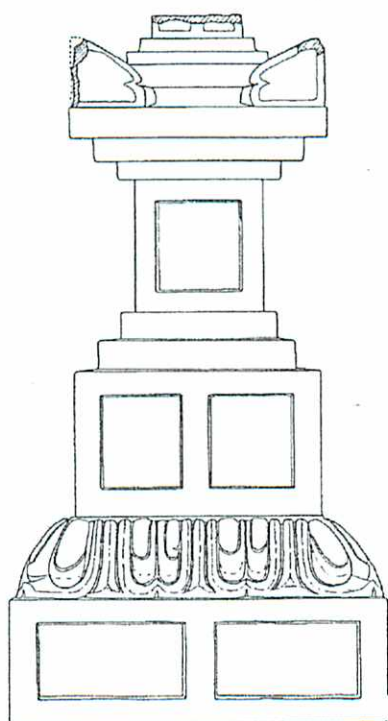
宝篋印塔
相輪 室町時代 (15C)



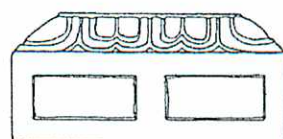
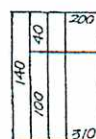
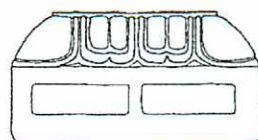
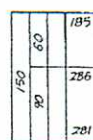
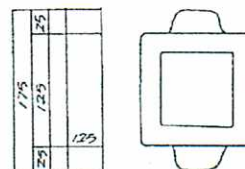
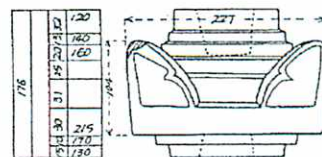
五輪塔
風輪・空輪 戦国時代 (16C)

※ 製作時期については筆者推定追記
※ 『厚木市史』中世資料編より改変転載
※ 縮尺不統一

908	172	219	
269	167	29	120
158	210	40	150
105	260	30	100
502	225	37	341
		28	278
		218	167

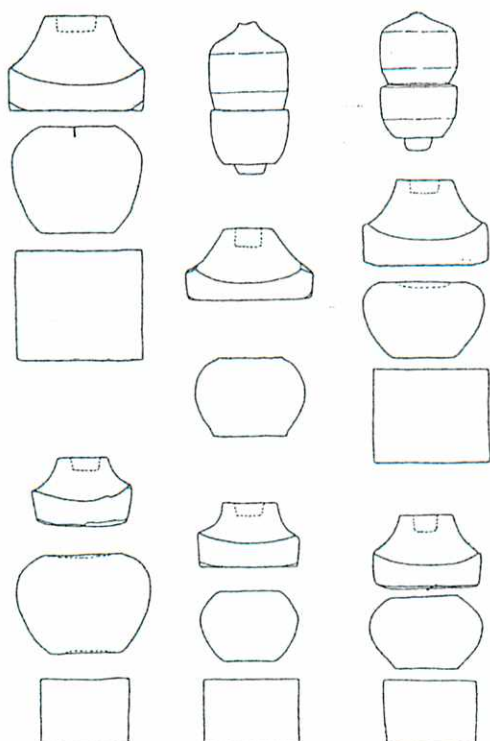


（向って右側一區）
右為養子

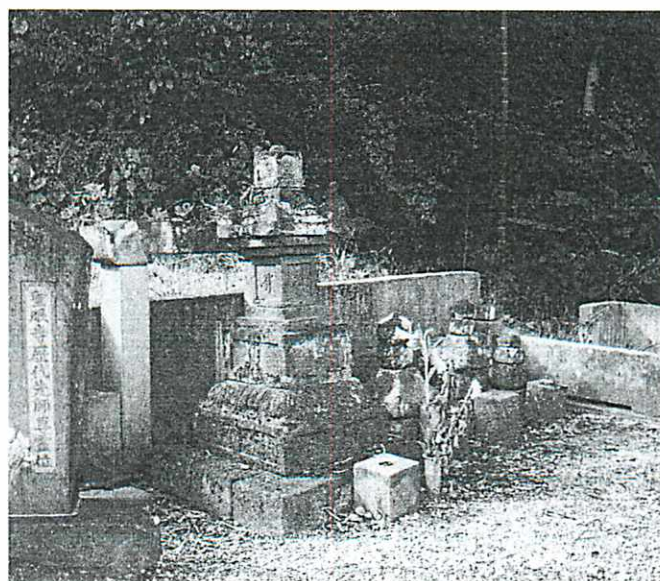


父七示中
(同左側二区)
康永二
三月日
(敬白)

宝篋印塔

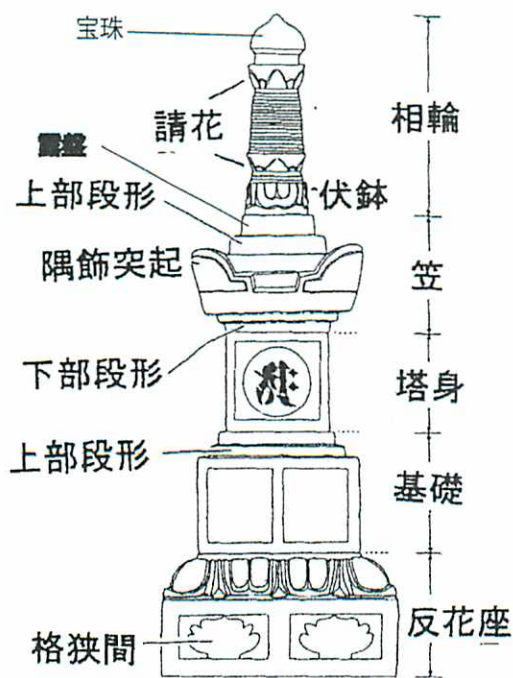


五輪塔

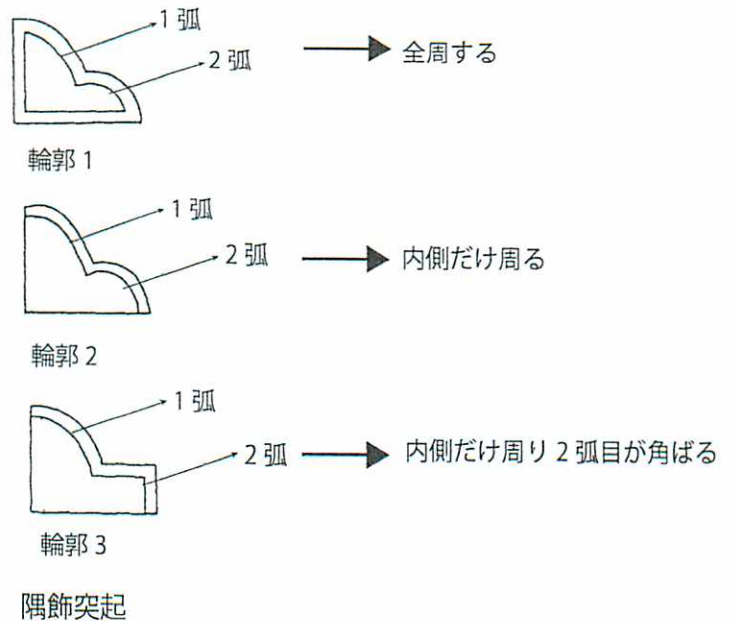


※『厚木市史』中世資料編より改変転載

埼玉県内の宝篋印塔の変遷



宝篋印塔各部名称



(栗岡眞理子「埼玉県における中世石造宝篋印塔の変遷について」『埼玉県立歴史資料館研究紀要』第24号より改変転載)

相輪 14世紀前半→請花のみ装飾、14世紀後半→請花＋伏鉢に装飾、総高の1/3程度の高さ。請花・伏鉢が直線的になり文様も幾何学的。15世紀代も同様

16世紀前半→伏鉢が大きくなり簡略化された連弁文様が刻まれる。

笠 14世紀前半→露盤を設け、隅飾突起の角度はほぼ垂直。総高2m前後の大型塔が多い。14世紀後半→露盤のないのが多く、隅飾突起の角度は外側へ傾斜。輪郭は2弧目が角ばる。上部段形と延作りとなり簡略化がみられる。下部段形は上部より低い。

15世紀代→隅飾突起内に梵字や円形状の突起を設ける。

基礎 14世紀前半→2区画＋反花座（関東形式）。14世紀後半（1380年以降）→関東形式なのに反花座をもたない塔が増加。15世紀代→1区画素面が2区画をしのぐ。上部段形は低くなる。

『相模原市史』文化遺産編

15世紀中葉以降小型石塔の大量生産になる

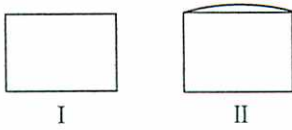
相輪の請花の線刻化が15世紀代に始まる

15世紀前葉、笠の延作り化、間弁のない反花座の出現

15世紀七沢石による製作が始まる

埼玉県内の五輪塔の変遷

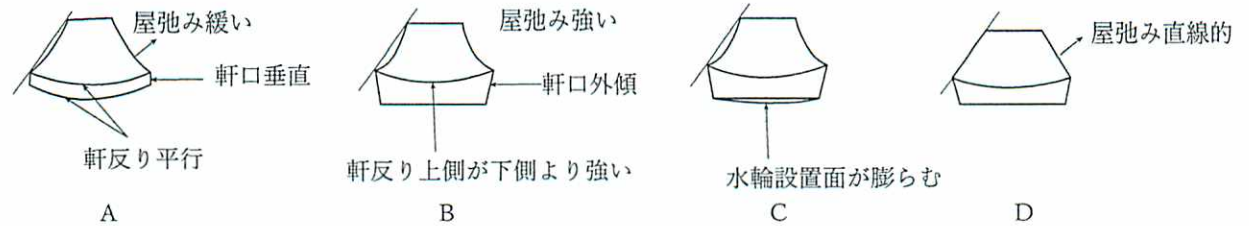
地輪



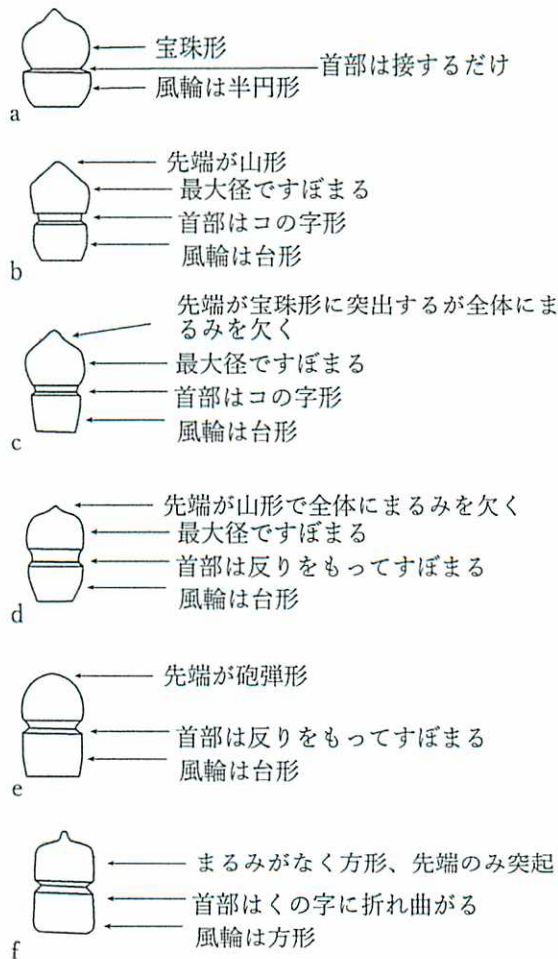
水輪



火輪

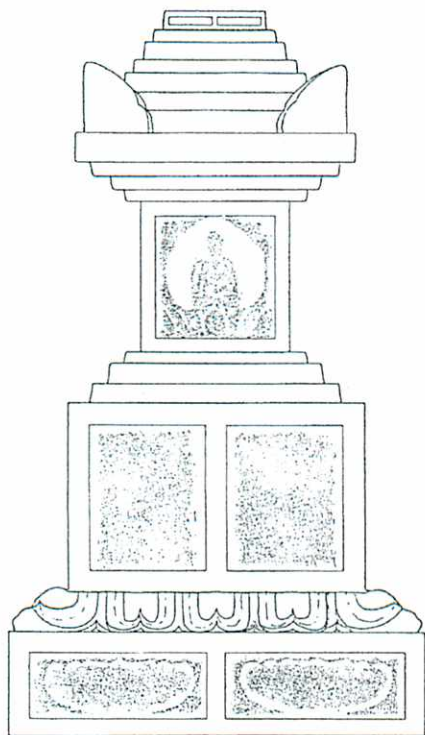


空風輪

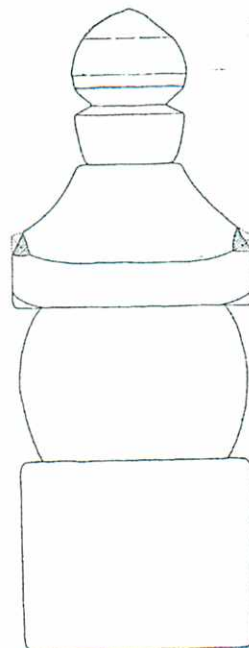


時期 分類	14世紀	15世紀	16世紀	17世紀
地輪	I			
	II			
水輪	1			
	2			
	3			
火輪	A			
	B			
	C			
	D			
空風輪	a			
	b			
	c			
	d	南北朝時代	室町時代	戦国時代
	e			
	f			

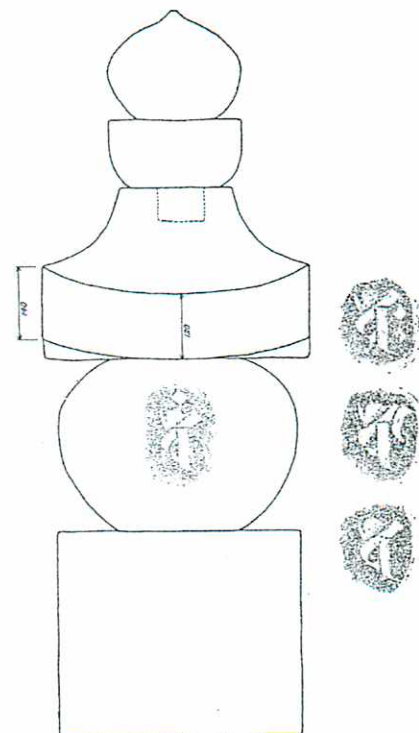
(栗岡眞理子「埼玉県の中世五輪塔編年案」『埼玉県立歴史資料館研究紀要』
第 23 号より改変転載)



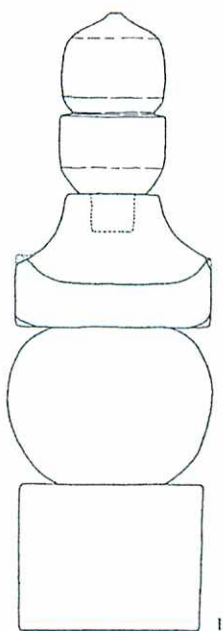
円光寺（愛甲）
伝愛甲三郎季隆墓碑
刻銘 建久三年（1192）
鎌倉時代後葉（13C 末～14C 初）



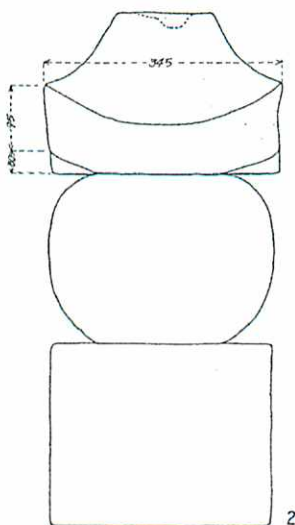
キフネサン
金田妙純寺南方
鎌倉時代（14C 初頃力）



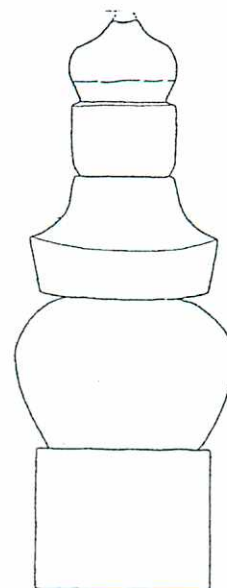
宝積寺（愛甲）
伝愛甲三郎季隆墳墓
鎌倉～南北朝時代（14C 前
半～中葉）



智音寺（旭町）
伝奈須与市宗高一族墳墓
延文 2 年（1357）



智音寺（旭町）
伝奈須与市宗高一族墳墓
貞治 6 年（1367）

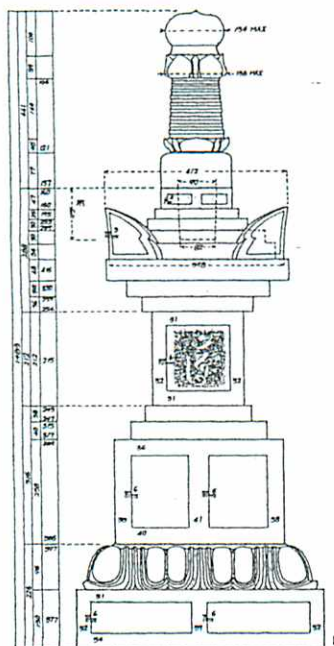


オケーリンサン
上愛甲
室町時代（15C）

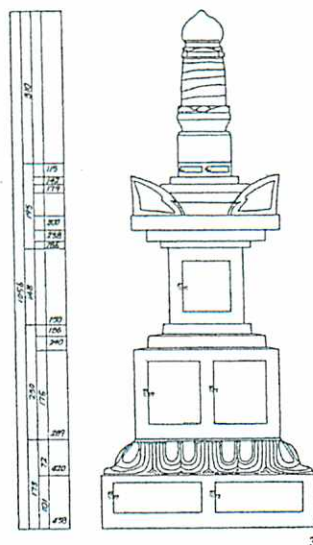
厚木市内の在銘塔を含む主な中世石造物

※ 無銘塔の造立時期については筆者推定追記
※ 『厚木市史』中世資料編より改変転載
※ 縮尺不統一

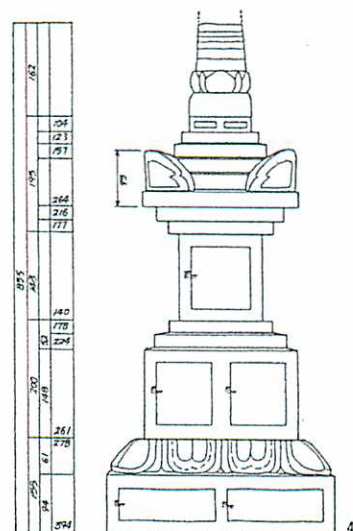
金田建徳寺の宝篋印塔



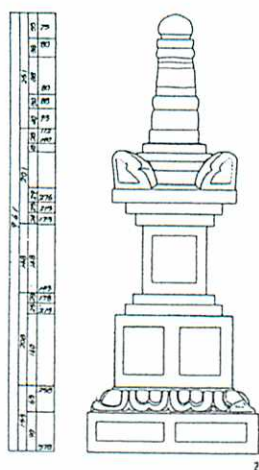
南北朝時代（14世紀中葉～後葉）



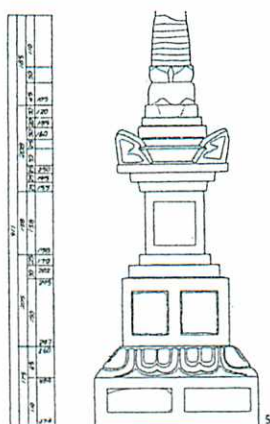
南北朝時代（14世紀後葉）



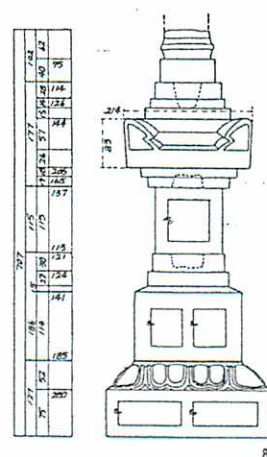
南北朝時代（14世紀後葉）



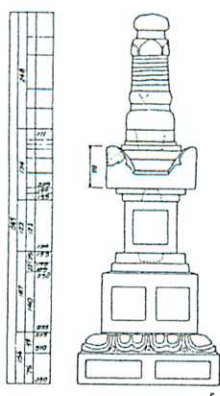
室町時代（15世紀前半）



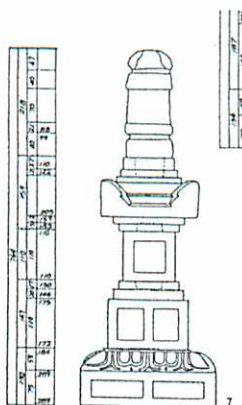
室町時代（15世紀前半）



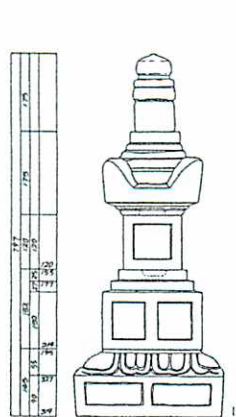
室町時代（15世紀前半）



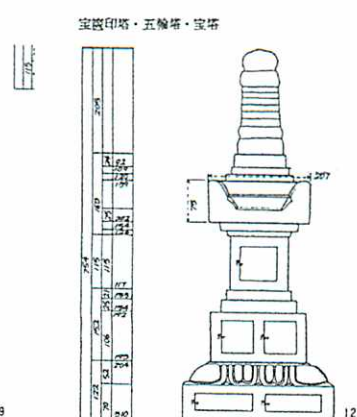
室町時代（15世紀後半）



室町時代（15世紀後半）



室町時代（15世紀後半）



室町時代（15世紀後半）

※『厚木市史』中世資料編より改変転載
※造立時期については筆者推定追記
※縮尺不統一